

コミュニティ常盤



平成6年4月1日

No. 23

発行

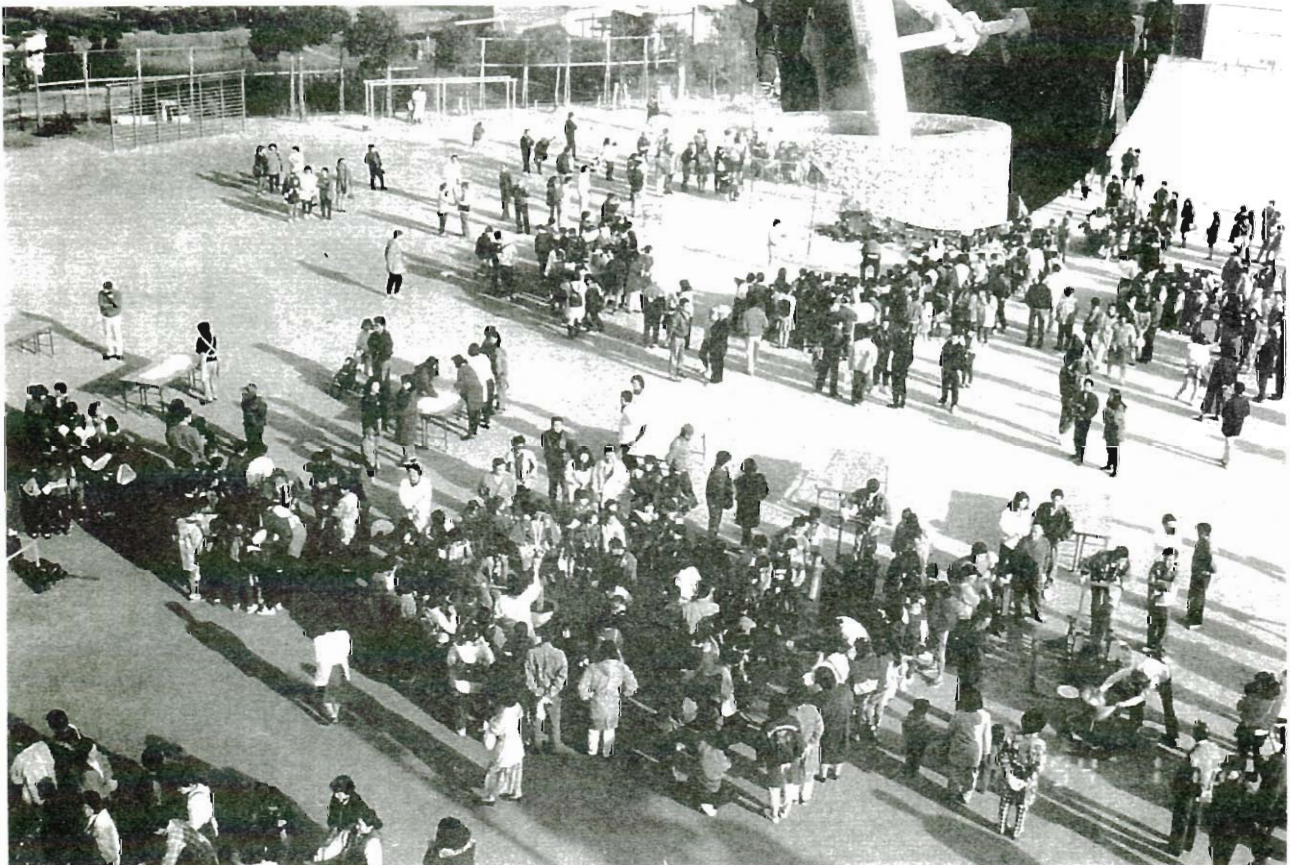
常盤校区コミュニティ推進協議会
(常盤コミュニティセンター内)

TEL 22-1455



どんと焼

楽しいふれあい



900人集まった!!

「どんど焼」一月十六日・常子連主催（会長・稲村省三、後援・校区社協・校区コミュニティ推協、常盤小学校）が、今年から小学校に場所を移して行なわれた。

はじめに、藤永校区社協会長から「どんど焼」の意味や云い伝えの説明があり、後に神事が行なわれた。伝統行事を子ども達に体験させると云うことで、十二月には、小学校の体育館で「輪かざり」「たこ作り」



の制作指導で老人会の人々の協力があった。子ども達の健全育成には地域の人々との交流が重要で、ひいてはこれが三世代交流に発展し「ふるさと作り」「ふれあい」活動の場になることを願っている。

当日は、常盤小学校の先生、PTAの沢山の方々の参加があった。とくに上田校長先生からは、「どんど焼」のモチ米を全量ご寄付いただきました。

二三九人参加のあるウォーク大会

大会

第二回、あるウォーク大会（主催・校区青少年健全育成協・会長有田雅晴、社会教育推進委・会長三原孝史）が三月十三日に、常盤公園遊歩道で開かれ、二百三十九人の参加があった。「あるウォーク大会」は青・少・協の中の、仲間づくり伝承部会（部会長中重寛）活動の一環として、宇



部青年の家をスタートし、一周六キロのコースで、途中には十のチェックポイントを設定し、問題に解答しながら健康づくりに努めた。ゴール後は主催者側で用意された竹のポンプラめしに舌鼓をうった。成績は一位波多あゆみ組、二位篠原優子組、三位里中亮介組であった。

婦人ボランテニア教室

教室

「常盤婦人ボランテニア教室」が、昨年七月から、八回講座で開かれた。受講生五十人中、常に四十人の出席という熱心さ。

「ボランテニア」というと、なにか特別なことのように思われるが、まず、なにか頼まれたら「エーヨ」と答えることが、ボランテニアの第一歩だと、開講式で、山口県中央児童相談所の森法房保護課長が言われた。

まず「エーヨ」。これなら誰にでもできる。そして芽生えた暖かい目を、次は隣りの子供、おむかいのお年寄りへと向ける。だんだんその輪を大きく拡げて、細かく気が配れるように。

そういうやさしい目と、心を持てるように、常に心を磨いてゆかなくてはいけない。

実技講習では、車椅子を押す。車椅子の操作、押す人の心遣いなど、説明を聞いて、二人一組で、乗る人、押す人。直進がやっと、段差のあるところでは、前輪

と、後輪に別々に、力と注意を振り分ける難しさ。乗っている方が怖い。障害者の方を、安心して乗せられるように、やさし



と、後輪に別々に、力と注意を振り分ける難しさ。乗っている方が怖い。障害者の方を、安心して乗せられるように、やさしく舌つづみ。

みどりの会が段取りをしていた行事に受講生が加って、みどりの会より、さらに年台層が厚く、人数も倍増、一層の賑やかさ。

これを機に、行事に参加する人が増えて、盛況となつたらと願う。

それを、さらにすすめて一人暮らしのお年寄りに、なにかしてあげられたら。

い心くばりができるよう、何回か練習してみなくては。

老人、病人の介護、老人ホーム見学、手話などが、こんなものだというところだけ、わかったところ。

これから、やりたい分野を見つけても講座を受講したあとの課題。



七草がゆは、一月八日（土）センターで。お年寄りを含めて、一五〇人分。大根、よもぎの天ぷら、寒天ゼリーも添えられて、多目的ホール一杯に色どりよく

そうなるよう、もつと勉強を積み重ねてゆかなくてはならない。また、男性の協力も、欲しいところである。



ペンクレー

九十分の夕食

岡の辻 松波 文子

「かんばしい！」
 お酒とお茶で今夜も
 始まった。わが家の
 夕食。盃と湯呑みの
 響きで一日の無事を祝う。
 テレビのないダイニング、
 見るものといったら料理と
 見なれた家族の顔。五分も
 すれば空腹感は落ち着き、
 そろそろ座り直して話に本
 腰を入れる。口火を切るの
 はたいてい次男。「きょう
 学校でねえ。」「ニュース
 でやっとなったけど。」「〇〇
 本の三十二ページに書いて
 あったことで。」次から
 次へと話は機関銃のようだ。
 おまけに「なんで！」「ど

うやって？」と質問攻めに
 あう。難題の解説者はもの
 知り博士の主人担当。口数
 は少ないが、興味分野にな
 ると、かま首を持ち上げる
 長男。私はとりまどめ役と
 でもいうか。
 アルコールも追加となり
 話題はきょうの出来事から
 学校、PTA、さらには社
 会情勢にまで発展してい
 く。そのうち子どもたちは
 ごちそうさまをし、話の中
 心は夫婦へと移る。傍らで
 将棋・オセロ・トランプ、
 時にはけんかも始まる。そ
 れらに熱中しているようで
 も耳のアンテナだけは張り
 巡らせているのか、時々口
 をはさんでくる。一時間半
 から二時間も費やすわが家
 の夕食後片づけを考えると
 気が重くなるが、長い時間
 を通して子どもたちが家族
 の団らんというものを感じ
 とってくれればと思う。

（次回は、
 東則貞の佐田茂子さんに
 お願い致します。）

香典返し

次の方々から香典返しとして、常盤校区
 社会福祉協議会にご厚志をいただきました。
 常盤校区の福祉事業のため、有意義につ
 かかせていただきます。
 厚くお礼申し上げます。

(自 平成5年12月～至 平成6年3月)

- 中重啓一様 (大沢西) より 様
ご母堂 タツミ
- 江嶋 宏様 (亀浦西) より 様
ご長男 隆 志
- 波多野文男様 (岡の辻) より 様
ご令室 純 江
- 松浦岩雄様 (東則貞) より 様
ご令室 美 子
- 鶴田 功様 (江 頭) より 様
ご母堂 アサヨ
- 中塚 馨様 (東則貞) より 様
ご母堂 コムメ
- 三井隆夫様 (大沢東) より 様
ご母堂 ミサオ
- 嘉久志俊郎様 (東則貞) より 様
ご尊父 芳 松
- 竹中英治様 (昭和町・大沢西後) より 様
ご母堂 とめ
- 日高正三様 (北則貞) より 様
ご令室 弘 子
- 佐々野照歳様 (岡の辻) より 様
ご尊父 義 一
- 藤田 進様 (東則貞) より 様
ご尊父 由 介
- 山田建設様 (後岡の辻) より 様
ご母堂 アキ子
- 山田賢治様 (大沢東) より 様
ご母堂 ユリ子

訂正お詫び

前号で松永孝介様のお名前がまちがって
 いました。
 お詫びして訂正させていただきます。

教室紹介

俳画教室

片山一子

「絵が下手だから筆
 は苦手」との声を耳にしな
 がら俳画教室を始めて、あ
 しかけ九年になります。俳
 画の大家「故 赤松柳史先
 生」は、俳画は人眼をうば
 うような技巧をなげ捨てて、
 人間のもつとも大切な飾り
 気のない精神により、真実
 を求めたい画である。俳画
 には定義がない。従ってそ
 の描き方も多様である。形
 に重きを置き、写生のゆき
 とどいた巧みな画、形体を
 意に用いないで拙く見え、
 稚拙の中になんとみえな
 い味な画など、巧みさより
 も、むしろ稚拙に尊さを見
 出す画である。しかし、そ

れには、文字通りの拙さだ
 けでなく、何か引きつける
 ものがなくてはならない。
 と言っておられます。
 先生のお心を深く胸にき
 ざみ、一か月の中の一日、
 一日の内の二時間あまりを
 上手、下手を度外視して、
 大人が子供心に帰る無心に
 なって、画を描く楽しい一
 時を味わってみては如何で
 しょう。知らない方との出
 会、これも又、何かのご縁
 をつくってお越し下さいま
 せ。お待ちしております。



秋風
一子

智恵袋

「コーヒーをおいしくする

「塩」

おいしいコーヒーを入れ
 ることはむずかしい。
 豆のひき加減、器具の使
 い方、時間などなど。
 コーヒーが煮立ってきた
 とき、塩をひとつまみ入れ
 ると、たちまち、おいしく
 なる。インスタントコーヒ
 ーも同じ。

「ガムで印鑑の掃除」

印鑑の掃除には、よく古
 い歯ブラシなどを使うが、
 油断すると印画を傷つける
 ことがある。

印画の変形が許されない
 実印などは、噛み捨てて前
 のチューインガムを使うと
 きれいになる。印画部分に
 ガムを練り返し張りつける
 だけ。見事にきれいになる。
 お試しを。

行事予定

- 5月8日(日) 運動会
- 8月7日(日) 夏祭り
- 9月15日(祝) 敬老会
- 11月12日(土) 文化祭
- 13日(日)

追憶

— 従軍の思い出 — (一)

大沢住宅自治会長 藪本義雄

私が現役兵として入隊したのは、昭和十九年四月一日、山口の歩兵第四十二連隊第二機関銃中隊でした。同日、陸軍二等兵に任じられ、初年兵として激しい訓練の日々が続きました。その時期、一番の楽しみは家族の面会でした。面会許可証のゴム印の押しであるハガキを班長さんにもらって家に送ると、次の日曜日に母が御馳走をつくって面会に来てくれました。

そして同年六月中旬ごろ転属の命令を受けました。同年兵とともに独立混成第三十二旅団指令部に転属となり、広島および島根から来た部隊と合流し、同年六月二十六日山口駅を歓呼の声に送られて出発しました。これが最前線への第一歩でした。

翌日の六月二十七日、門司港で乗船、ただちに出港です。乗船した船は「アラビヤ丸」という船名でした。一万トン級の船が十二隻、一堂々の船団を形成して、第一の目的地であるフィリ

ピンを左右に振り、南の方へ帰って行き、心強いかぎりでした。

同年七月七日の夕刻、台湾南端のキールン港に入港しました。その夜はやすらかな眠りにつき、翌八日同港を出港し、当時もとても危険水域といわれたパシ

ー海峽へ突入したのです。台湾とルソン島の間の海峽です。敵潜水艦がたびたび出没し、魔の海峽と呼ばれ幾多の輸送船が沈められた海峽です。我々の船団はジグザグ航法を取り入れて潜水艦の目を避けて南下して行

きました。そして同年七月十二日午前七時ごろ、我々の乗っている船の右後方の「日蘭丸」より突如として火柱があがりました。大変なショックでした。

敵潜水艦が発射した魚雷が命中したのです。我々船団は一隻だけ危険を感知で救助のために残して、全速航行で南下したのです。

同年七月十三日の夜明けにルソン島北端のアパリ港に着き、船団の体形を整えて

ルソン島の西岸に沿って再び南下しました。うっそうと繁る椰子の林を茫然と眺めながら、激戦地だったバタン半島およびコレヒドール島のすぐ横を航行して、昭和十九年七月十五日、第一の目的地であるマニラ港に無事到着しました。

「コミュニティ常盤」が発行されて、今回で二十三号になりました。素人の集まりで、初めは手さぐりの状態でした。編集員一同何んとか楽しい話題を校区の皆さんにお知らせしようとなつてまいりましたが、今ひとつインパクトに欠けるものを感じておりました。そのため、今回より、誌を刷新する事で先月ウベニチ新聞社の飯田編集長をお招きして、広報とはどうあるべきかの勉強会を開きました。

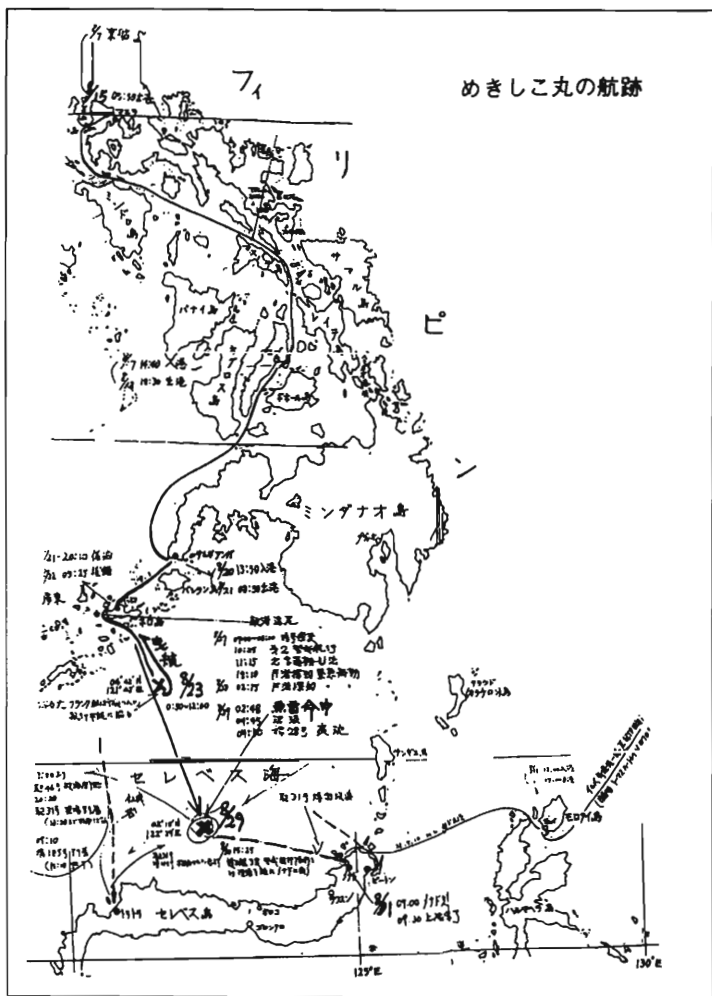
当時のマニラは日本軍の制空、制海圈内にあり、湾内には数十隻の艦船が待機しており、空には絶えず哨戒飛行が続けられており、約二十万の日本軍が駐留していました。我々はマニラの兵器廠で九二式の最新型重機関銃を受領し、兵舎がないので郊外の競馬場で起居していました。

昭和十九年八月十三日、軍令陸甲第六十三号により独立混成第五十七旅団臨時編成の命令を受け、約一カ月のマニラ駐留を終わり、ただちにマニラ湾内の輸送船「メキシコ丸」に乗船し、最終目的地のセレベス島北端の警備につくため、八月十五日マニラ港を出発しました。

編集員は、現在七名です。毎回ワイワイ、ガヤガヤと楽しくやっていますが、今少し編集部員を増やしたいと思っております。誌の発行に少しでも興味をおもいの方がおられますら、一度参加してみませんか、歓迎いたします。

校区の皆さん、読後感はいかがでしょう。か、今後は皆さんのご意見をはば広く取り入れて、ゆきたいと思えます。などお聞かせいただき充実した「コミュニティ常盤」をお届けしたいと考えています。

めきしこ丸の航跡



相良部隊長記録作製図

昭和十九年八月十三日、軍令陸甲第六十三号により独立混成第五十七旅団臨時編成の命令を受け、約一カ月のマニラ駐留を終わり、ただちにマニラ湾内の輸送船「メキシコ丸」に乗船し、最終目的地のセレベス島北端の警備につくため、八月十五日マニラ港を出発しました。

(次号へつづく)

編集後記

「コミュニティ常盤」が発行されて、今回で二十三号になりました。素人の集まりで、初めは手さぐりの状態でした。編集員一同何んとか楽しい話題を校区の皆さんにお知らせしようとなつてまいりましたが、今ひとつインパクトに欠けるものを感じておりました。そのため、今回より、誌を刷新する事で先月ウベニチ新聞社の飯田編集長をお招きして、広報とはどうあるべきかの勉強会を開きました。

今迄は原稿依頼ばかりの記事を掲載しておりましたが、記者の目で書く記事に変身させたのが、今回の「コミュニティ常盤」なのです。

校区の皆さん、読後感はいかがでしょう。か、今後は皆さんのご意見をはば広く取り入れて、ゆきたいと思えます。などお聞かせいただき充実した「コミュニティ常盤」をお届けしたいと考えています。

編集員は、現在七名です。毎回ワイワイ、ガヤガヤと楽しくやっていますが、今少し編集部員を増やしたいと思っております。誌の発行に少しでも興味をおもいの方がおられますら、一度参加してみませんか、歓迎いたします。

COMMUNITY TOKIWA NO.24

コミュニティ常盤



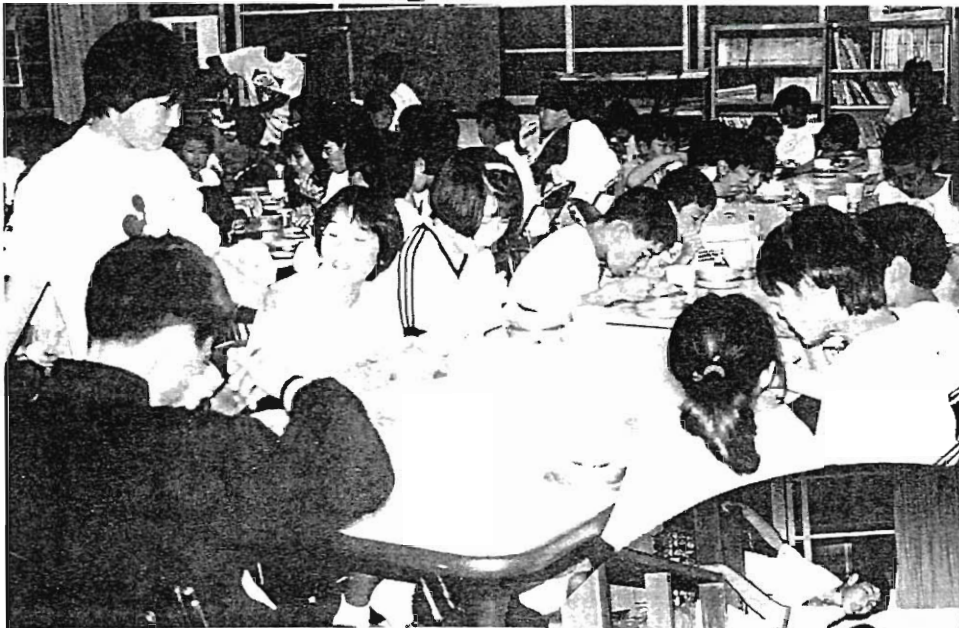
平成6年8月15日

No. 24

発行

常盤校区コミュニティ推進協議会
(常盤コミュニティセンター内)

TEL 22-1455



ジュニアリーダーの 活動は 楽しい集い



私たち、ジュニアリーダー（会長・嶋本あいさん、会員二十二名）は、単位子ども会を活発にするために活動しています。

最近、子ども会の行事が親の都合で少しずつ減ってきているように感じています。

このためにも、各単位子ども会に、ジュニアリーダーのメンバーが一人でもい



れば情報も入り協力できるのに、と思うと悲しくなります。子供たちから色々な意見を聞くために「うさぎ箱」意見箱を小学校に設置させていたゞいていますが、あまり利用されていません。

子どもの皆さん大いに利用して下さい。待っています。

おとなの皆さん、行事を減らす前に一度ご連絡下さい。きっとお役に立てると思います。

これから、校区の子どもたちのために、一生懸命に活動していきます。

立て看板の部 最優秀賞に常盤

第12回ふれあい大会立て看板最優秀賞の常盤校区作品



絶好のスポーツ日和となった五月八日、常盤小学校のグラウンドで、九回目の校区民大運動会が行われた。十八自治会から約千八百人が参加した。競技は自治会對抗の「綱引き」「リレー」「百足競走」や個人の障害物走など約二十種目。競技器具の準備はジュニ

「なごやかな語らいで、心がふれあうまちづくり」をテーマに、まちづくり懇談会が開かれ、五月二十五日市民センターに、藤田市長、助役、各部長を迎えて、校区の代表者と、意見交換が行われました。藤田市長から、「市長に

就任して十か月、まだまだ市民の声を聞いている、といったところ。市長として、本格的に仕事をするのはこれからだ。」との、挨拶がありました。若い市長に期待する思いが膨らみます。懇談会では、常盤公園を活かした環境整備など、魅力ある地域づくりを進めるための、前向きな意見が交わされました。

一、八〇〇人集った 常盤校区大運動会



アリーダーの中高生が担当で、ふれあい運動会を盛り上げた。大会会長の藤永保成校区自治会連合会長は「年度初めの交流行事。以前は勝負にこだわる場面もあったが、最近は親しく第一が定着して来た。中高生生の協力もあり。ふれあい運動会となっているのがうれしい」と話した。

海岸清掃 日本列島クリーン大作戦

海開きを控えた6月26日の日曜日、宇部市環境連常盤支部主催の常盤海岸清掃が行われた。好天に恵まれ、気温もグン上がり、320名もの参加者はそろいの紙帽子を被り、手に手に、ビニール袋を広げ、海岸に捨てられたアキ缶、ビン類



を拾って歩いた。他の主な参加団体次のおり。宇部市協小協小さな親切運動・校区青少協ふるさと美化部・ふれあい運動推進協・亀浦子供会。予想以上の参加者にニコニコ顔の岡田会長は、配ったジュースの数を聞いてうれしい悲鳴をあげたそう。皆様お疲れ様。来年もたくさんの参加をお願い致します。



町づくり懇談会

五月十四日 土曜日。みどりの会「リフレッシュ旅行」に参加した。常盤ボランティアセミナーからも数名の参加があり総勢二十名。みどりの会は、ボランティアでも遊びでも楽しくやっちゃおう!!。という女性

みどりの会

大平山へ!!

性ばかりの会だから、常盤駅集合から、もう賑やか。もっとも最近では、女ばかりの会は魅力がないと、敬遠されるそうだが……。「女だけが気楽だ」。なんて、やっぱり、おばさんなのかな？

さて、目的の地は防府、大平山。宇部線、山陽本線、防長バスと乗り継ぐのもうらしい。大平山麓駅から、所要時間六分のロープウェイで山頂へ。山頂では、周囲の雄大な眺めに歓声を上げる。また一〇万株といわれる「つつじ」は、咲き仕舞いに近かったが、それでも、見事なものだった。

車で来たのであろう若者グループの輪から漂う、焼肉の煙をおかずに、手作りのおむすびをほほ張る間、しばしの静けさ。ロープウェイで下山し、毛利邸庭園を散策。庭園に向かう道すがら、桑の実、さくらの黒くて小さな実を口にしてみ、昔の味をなつかしむ。終戦後の少女時代に「おいしかった」味である。防府駅の新駅舎の高いエスカレーターを、物珍らし気にキョロキョロと登り、はしゃいで待った列車は、たったの二両編成で、新装なった長いホームで待つ、われわれの前を通過して、

ホームの前端に停車した。笑いころげながら乗り込み帰路についた。このバイタリティ。この明るさ。列車は下校ラッシュだったが、みんな、なんとか席を確保して、いやはや、おばさんパワーには、頭が下がります。もっとも私もその一人ですが……。

ペンクレー

「我家の海開き」

東則貞 佐田茂子

世間ではまだ海開きもすんでいない六月のある日曜日。
我家恒例の海遊びに出かけた。とっておきの秘密の場所、夫はこの時期にアワビ、サザエを素潜りで採り、魚をヤスで突く。
私と子どもたちは水着に着替え、魚釣りをしたり潮だまりで遊ぶ。

沖には白い雲。所々に浮ぶ島々が水平線を切り取り、子どもならずも来たる夏休みに胸躍るひと時である。時折り沖の岩かげに夫の頭がポコンと浮かび、又波間に消えていく。たとえ大雨が降ろうともこの行事をかか

小三の二男は盲滅法竿を引き上げる、これまた不思議な事に魚が釣れている。そして小四の長男は、「場所が悪いみたい、竿が悪いみたい」と、あれこれ講釈を言いながらも本日一番の大物を釣り上げ大満足。一人私だけが帰宅後の魚の始末を考えて頭が痛い。かくして、夫の背中無残な日焼けと小魚の山と子ども達の宿題の山とを残して恒例の一日は終るのである。



次回、大沢東の肥塚美也子さんにお願いします。

香典返し

次の方々から香典返しとして、常盤校区社会福祉協議会にご厚志をいただきました。常盤校区の福祉事業のため、有意義にっかわせていただきます。厚くお礼申し上げます。

(自平成6年4月～至平成6年7月)

- 西村 勲様 亀浦2丁目14-6 様
ご令室 西村 ヤスコ 様
- 林 征行様 亀浦1丁目6-5-501 様
ご母堂 後藤 キサ 様
- 若松 謙治様 亀浦5-1-23 様
ご尊父 若松 敬助 様
- 久保 哲仙様 大沢西後 様
ご尊父 久保 虎三 様

常盤校区社会福祉協議会

教室紹介

リズムダンス

姿勢が良く髪をキユッと結ばれた納谷雅子先生は、「取材は体験から」と私たちに踊ることを勧められた。その日は「Now and for ever」というゆっくりめの曲で始まった。右手左手グルッとまわってワンツー...と手とり足とり暖かい指導をされる。十数名の生徒さんがレオタードや色とりどりのTシャツに身を包み軽やかに次のアンプテンポの曲に移る。そして次は「がじゃいも」と選曲も巾広い。

汗もしたたるいい女になったところで冷たい麦茶とアメで喉を潤し、正面から



「足は第二の心臓」

七月五日、当センターに於いて「常盤高齢者学級」が開催された。
シーサイド病院院長延谷壽太郎氏が、一時間半にわたって「高齢者のいきいき健康法」と題して講演された。同級会員約百人が熱心に受講した。



高齢者の健康法について「むつかしいことより、果立って行った「つばめ」

「つばめ」

今年もつばめの一家が、「親子六羽」センターから巣立って行きました。三週間のえさ運び、巣からつれ出する三日間の生活練習の後です。親鳥の苦勞と愛情に心をなやませる。祈るばかりです。



平成六年度 校区主要行事予定

敬老会 平成六年九月十五日(祝)
文化祭 平成六年十一月十二日(土) 十三日(日)

お年寄り汗を流す!

常盤老人クラブ 社会奉仕活動の日

七月七日早朝二時間、常盤連百名が夏祭りに備えてセンター、広場などの草取りと清掃に汗を流された。ジュースを飲んで汗を拭き、「急がんなきゃ踊りの教室が始まる!!」と着替を急ぐお年寄りもいた。夏バテ気味の若者よ見習って!!



追憶

—従軍の思い出— (二)

薮本 義雄

今度の船団は九隻でした。「メキシコ丸」は五千トン級の貨物船で、船内は一番船艙から六番船艙に仕切られており、我々の部隊は四番船艙でした。船の中を改装してあり、カイコ棚のような兵員室の暑さは想像を絶するもので、船内はムシ風呂同然、ほとんどの兵士は甲板で起居していました。私はイザという時に備えて、甲板上に上がる階段の下に陣取っていました。

船団は順調に南下を続け、セブ島、ホロ島を通過する。九隻の船団でマニラ港を出港したのに、このころにはいつの間にか二隻だけで南下してしまっていました。すでに敵機の制空、制海圏らしく友軍機の影響も艦船も見当らず、戦況の変化を覚えていました。八月二十三日、僚船「はあぶる丸」がセレベス海で機関の故障により航行不能となり、我が「メキシコ丸」が曳航してホロ島に引き返しました。

「はあぶる丸」と別れた「メキシコ丸」は駆逐艦と掃海艇の護衛を受け、セレベス島へと南下を続けました。そのころ船内で兵隊が病気で亡くなりました。遺体はそのままにしておくと、麻袋に遺体を入れ縄でしば

り、全員甲板上で敬礼をし水葬です。遺体の入っている麻袋を海上へドボンと落したのです。見る見るうちに海中深く沈んでいきました。私はこれが戦地だと強く感じたものでした。

島影もなければ友軍機の飛来もなく、セレベス海の水水平線の明け暮れが日課となり平穩そのものの航海でしたが、敵の潜水艦がどこにひそんでいるかわからない航海が続く限り、一瞬の油断もできない不安を感じながらも、紺碧の海に船首が押し切る波、おどろいて左右に飛ぶトビウオを見てると、今日も無事だったと思いが故郷のことなど思い出し、八月二十九日午前二時ごろ船内で横になりウトウトと眠りかけたころ、ドーンという物凄い音と同時に激しいショックを体にかけてしまった。ハッと思った瞬間に船内の電灯が消え、船体が斜めになりました。敵潜水艦の魚雷攻撃を受け、我が「メキシコ丸」に命中したのです。

救命胴衣を枕にして寝ていたが、どこにあるかわからない。心はあせる、今船が爆発したら最後だと思ふと、心はますますあせる。早く甲板に出なければと思

いながら、命綱の救命胴衣がなければ生き延びられない。ここはセレベス海の真つただなかだ。白煙が船内に充満してパニック状態となり、階段はわれ先にと兵士が群がり、まさにこの世の地獄の様相であり、私は救命胴衣を諦めてようやく甲板上に出ることができました。

船首は燃え上がり、熱のためには弾薬が次々と破裂している。海上を見れば多くの兵士が泳いでいるのが見える。私も早く飛び込まないと船もろとも運命を共にすることになる。しかし救命胴衣がなければどうにもならない。考えているうちに船尾の方にも火が燃え広が

ができました。振り返ってみると船は船尾の方から沈み始めていたが、見る見るうちに船体が垂直になりアツという間に轟音とともに水中に消え去りました。明らかだった海上は瞬時にして真つ暗になりました。

私は浮いていた大きめの木につかまりホッとしました。そして護衛艦が近くに二隻いたのですぐ救助されるところで済みました。しかしその望みは空しく消え、暗闇の海がピカピカと光つたと同時に敵の魚雷が命中し、二隻とも沈没したのです。周囲から悲鳴と溜息が聞こえました。

しばらくして軍歌「海ゆかば」の歌が聞こえてきました。その声を聞きながら、十二歳の若き命を南のセレベス海で散っていくのか、と思ふと不覚にも涙がこぼれました。

そして何事もなかったように海に夜明けがきました。生き延びた戦友達は私を含めて重油の層から脱出したので、重油がベトリとへばりつき、肩から顔面にわたって火傷している兵士も激痛に耐えての漂流でした。長時間たつたのだらうか、太陽は強烈に照りつけて頭が熱くてたまらない。海水で頭、顔を洗う。油が目に入っただけでチクチクと痛む。

ちようどそのころ、宇部高等小学で机が一緒だった沖の山出身の松本君と洋上で出逢い、その後彼とは復員するまで一緒でした。不思議なことに無人の救命胴衣が流れているのが見つかり、さっそく身につけて私は大安心でした。さらに漂流を続ける。夕暮れが近くなってきたが、なぜか空腹感はなく、夕焼けの水平線に沈む真つ赤な太陽は絵に書いたように、実に美しい光景でした。

ついに夜が来た。二十三人位で円陣をつくって隣の兵士が眠ったら起こしてやるように教育を受けていたので、円陣を組み漂流を続けていた。夜明けの二時過ぎから起きていたので眠くはなかったが、眠るわけにはいかなかった。兵士たちは無言で潮の流れに身をまかせ、ただ漂流するだけだった。ただ漂流する間が経過したのだらうか、まったくわからない。

私は夢を見ていました。父親が「おい、寒いじゃろう、これを飲め」と、酒を入れたコップを差し出したが、私が返事をしないので再三にわたり私の名前を呼んでいる。返事をしなければと思いましたが声が出ません。フト気がつくくと、戦友の松本君が眠っている私を揺り起こしてくれたのです。目がさめた途端、急に空腹と寒さを強く感じました。海の上ではどうする

たが、海の上ではどうする抱すだけでした。ただ辛

何だろうとよく見ると、海軍の救助船が二隻で、漂流している兵士を救助しているではありませんか。私は自分の目を疑いましたが、間違いではありませんでした。私は心の中でパンザイを繰返し、「よし、これで生きまされる」と自信を強く持ちました。しかし私たちのところに船が来る気配がありません。松本君と相談して、救助船のいるところまで泳いで行くことにしました。もしも救助の途中に敵の潜水艦が現れたら置いて行かれるおそれがあると思つたのです。

どのくらい泳いだのでしようか、救助船は目の前です。よし助かったと思しながら、大変疲れていました。最後の力をふりしぼって泳ぎ、ようやく船のタラップに手が届きました。起死回生とでもいうのでしようか、筆舌に表現できない人生最大の感激でした。今まで生命を支えてくれた救命胴衣をはずし一段一段とタラップを昇り、ついに船上にたどり着いたのです。午後二時三十分位で漂流時間は三十時間を超えていました。

(次号へつづく)

大沢住宅自治会長 宇部市西岐波二三三四



COMMUNITY TOKIWA NO. 25

平成7年1月1日

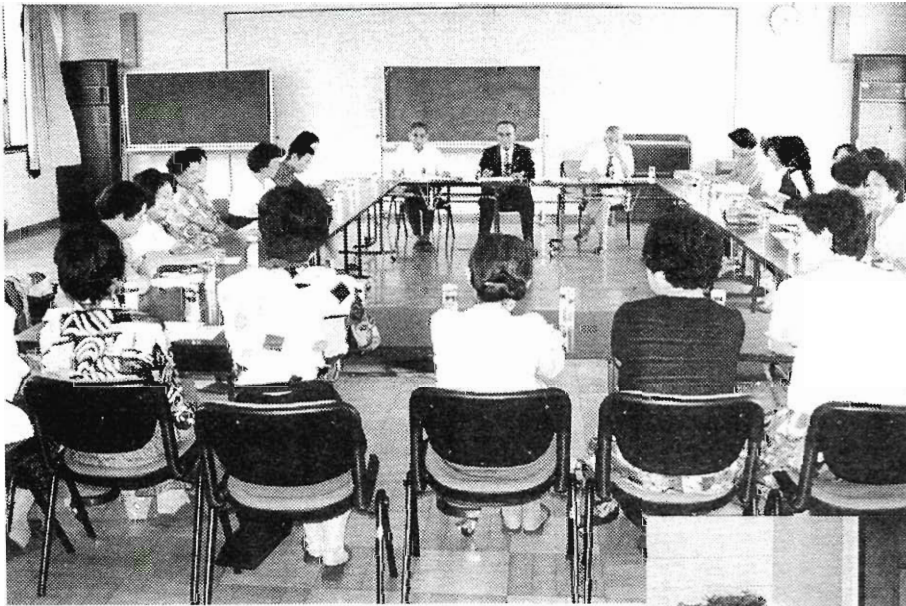
No. 25

発行

常盤校区コミュニティー推進協議会
(常盤コミュニティーセンター内)

TEL 22-1455

コミュニティー常盤



ふれあい 常盤校区

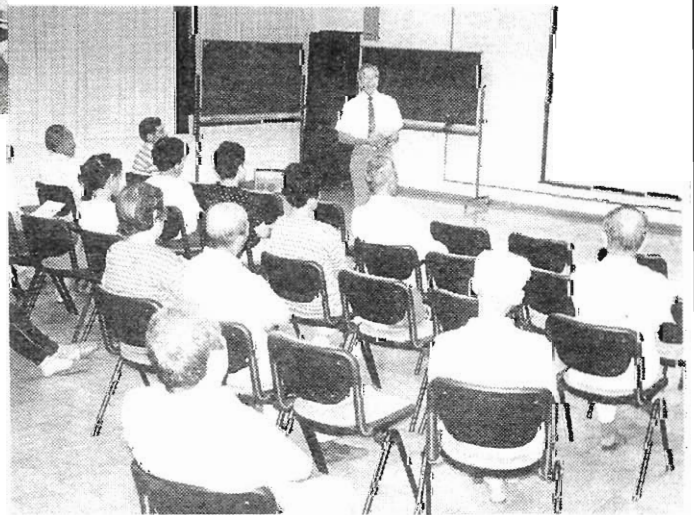
高齢者の社会参加
↓ 地域の清掃奉仕

↑ あしたの地域福祉をめざして
小地域福祉講習会



差別のない社会をめざして
↓ 同和教育地区懇談会

↑ 秋の交通安全健民運動
小さい時からの交通安全



あけまして
おめでとうございます
今年も 素晴らしい常盤校区に

年男・年女の夢

後岡の辻
西岡芳明



来年は亥年、わが年、還暦、そして定年の年である。何はともあれ頑張らなくてはと力んでいるが、やはり生身の体、健康管理に、気をつけて、校区の行事にも今までのように積極的に参加し、親睦を図っていきたいと思っている。今、家では、三年前から毎日常盤湖一周のウォーキングをやっている。歩けば食欲も出るし、一日中調子がいい。これも長く続けたい。また自治会長になって十四年になるが戸数も現在二百二十七戸と大世帯の自治会になり、まだ増えつつづけている。市民センターや、各自治会長、そしてわが後岡の辻自治会の皆様の熱いご理解と協力のおかげで大過なくこの仕事を続けさせてもらっている。これからも頑張って行きたいのが「私の夢年男の夢」今後共よろしくお願います。

平凡な夢

亀浦北
飯田孝子



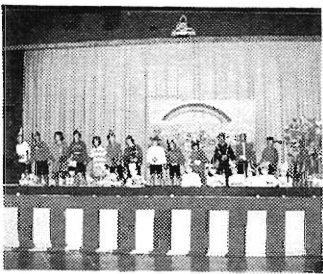
戦後半世紀を迎え、世の中は激動し、一変して来ました。特に女性の社会参加、進出は目ざましいものです。亥は猪突猛進型とよく言われます。自分乍ら、亥、「いやだ」、「恥かしい」気持ち先立ちます。姿、形さえも、鼻先からシッポ

までどう見てもユニークで、吹き出しそうです。性格だっけ荒々しく感じられます。しかし飼育された方のお話だと「そんなことはない、やさしくて愛嬌者です」、と小耳に挟んだことを思い出しました。だから私は、外見お粗末でも堂々と胸を張って歩こうと思えます。残り少ない人生を健康には充分留意しエネルギーの可能な限り社会に、地域に貢献して行きたい、そして日々感謝と共に悔みなくみなさんと楽しく過ごせたら。平凡ではありますが、それが夢です。

熱演！ 舞台もせまし

常子連文化祭

常盤校区子ども会育成連絡協議会（伊藤明会長）の第十七回文化祭が十月十六日、常盤小学校体育館で開



かれた。五チーム百名の児童が舞台で劇や踊りを披露し、観客の拍手を浴びた。会長挨拶のあと劇「ほんとはんとおおかみだ」岡の辻、劇「えんぴつ君」五支部、踊「親子ソーラン」江頭、劇「ピーターパンをさがそう」東則貞、劇「へそを取られたかみなり」亀浦と続いた。岡の辻は女子のみだが観客席を使うという舞台効果がうまく練習の成果がみられた。五支部は上学年男女でテレクさが隠せなかったが宿題をエンピツ君に頼むストーリーは受けた。近年劇が多い中、江頭の踊りは全学年男女共

真剣のひと言だった。東則貞の悪役フック船長の迫力ある演技には驚いた。亀浦は子どもらしい態度と内容で舞台全体が明るく色もカラフルで、第一に子ども自身が楽しんで劇をしていることがみられた。最優秀賞は亀浦に決まった。



盛況だった 常盤校区文化祭

十一月十二日(土)十三日(日)は、晴天に恵まれて、校区文化祭は、千三百人の区民が集まり、賑わった。福引き、みかんの掴み取りは、毎年文化祭の「目玉」。バザーのうどんや、焼き鳥などを食べながら、演芸の合い間に行われる福引きの景品にはしゃぎ、みかんの掴み取りに、長蛇の列ができた。作品展も、回を重ねるとに大作が増え、展示会場一ぱいに並べられた力作に目を見張った。

こんなにたくさん あきかんが

六年 原田亜矢子



私は、「ちょっとあきかんをひろってみるか。」というかんじで、あきかんひろに行ったら、いなだ商店から市民センターまで、あきかんが三ふくろ、ごみが一ふくろもあった。こんなにひろっても、まだあるくらいだった。こんなにすてる人がいるなんてたなんてしらなかつた。だから、のんだら必ず家にもって帰るようにしたい。

こんなにいっぱい

六年 中野芳恵

私は、10月23日の日、あきかんひろいに出た。最初は、そんなにないだろうと思ってやっていた。思ったよりたくさんあったので、おどろいた。あきかんだけでなくごみもたくさんあった。私は、な

常盤婦人ボランティア教室研修旅行

せこんなにたくさんあきかんなどをすてる人がいるのかなーと思った。とてもつかれたけど、またこんな行事があったら、参加しようと思った。

十一月十七日(木)ボランティア教室は、二周年を控え、盛り上がりを見せ、会費を出し合って長門方面へ、研修バス旅行を楽しんだ。車内では、カラオケで自慢の「のど」を披露し、日頃感じていること、主人のこと、子供のことなどこまごま話される人もあって、打ち解け、楽しく有意義な一日だった。これが、これからさらに広がってゆくボランティア活動の活力の源となることでしょう。

国の史跡に指定されている「村田清風旧宅」を見学。

「香月美術館」では、香月泰男画伯の作品を、じっくりと鑑賞した。

「楊貴妃の墓」にお参りし、美しい楊貴妃像の前に並んで、記念撮影のカメラにおさまった。

ペンクレー

我家の息子達

大沢東 肥塚美也子

「男の子の双児っていいねえ。大きくなった二人が学生服を着て『お母さん、行って来ます』っていう姿を想像してごらんよ。セイがいいねえ。」

「そのうちにね、この顔に口ヒゲが生えて、ニキビもできてくるんよ。」と言ったのは誰だったろう。とにかくどれも、生まれたばかりの二人の赤児を抱えた私には想像もつかないことばかりだった。学生服？ ニキビ？ エッ？ エッ？

ところが時間は過ぎるものなのだ。あの時彼女達が言ったように、我が家の息子たちは育った。

あんなにスベスベできれいだっただ顔には、ちゃんとニキビができてくる。ついでに声変わりまでして。あつという間に私の背を越してしまい、毎朝大きな学生服を着て「行って来ます」というのは、児島さんの言った通り。これなんだなあ。彼女言葉の思い出している。しかも、あの時の彼女達の話には、続きがあったのだ。

まるで引き潮の波が、少しずつ岸に打ち寄せながら確実に沖へ引いていくように、息子達も少しずつ少しずつ親から離れようとしている。それは昨日よりも今日、今日よりも明日と、目に見えるようである。

冒頭の彼女らの話のさらなる続きはどんなものなのか、興味しんしん、じっくり見ていこうと思う。

ところで、五年生の三男までもが、兄達に遅れまいと一生懸命に後を追っている。なにもそんなに急がなくてもいいのだけれどね。



やひろ画

次回は、岡の辻の村野さんにお願います。

香典返し

次の方々から香典返しとして、常盤校区社会福祉協議会にご厚志をいただきました。常盤校区の福祉事業のため、有意義にありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

(自平成6年7月～平成6年12月)

- 中重アヤ子様 大沢西 中重芳一様
- ご夫君 中重 後岡の辻 芳一様
- 木下幸吉様 木下 スミコ様
- ご母堂 高橋 初子様
- 高橋泰男様 高橋 初子様
- ご母堂 高橋 初子様
- 河野信子様 大沢 宮住宅 河野 勇様
- ご夫君 河野 勇様
- 藤田孝行様 岡の辻 藤田 スミ子様
- ご母堂 藤田 スミ子様
- 平井公江様 則貞 4-12-3-2 平井 幹男様
- ご夫君 平井 幹男様
- 大森伝之助様 厚南区西園(大沢西後) 大森 恒造様
- ご尊父 大森 恒造様
- ご母堂 大森 恒造様
- 寺澤さつき様 亀浦 1-2-15 寺澤 大英様
- ご夫君 寺澤 大英様
- 西村卓司様 岡の辻 西村 菊代様
- ご母堂 西村 菊代様
- 福谷喜久恵様 大沢西後 福谷 健雄様
- ご夫君 福谷 健雄様

常盤校区社会福祉協議会

教室紹介

日本習字教室

日本習字教室をご存じですか。月三回、水曜日の午後一時より三時半まで常盤市民センター二階和室で開かれています。講師は上園里野先生、部員十五名。うち二名は男性です。

背すじをピンと伸ばして書く書道。書く字には人柄が表われます。個性が光ります。そして教養すらにじみます。



常盤小学校初代校長三原先生がPTA活動の一環として始められ、現上園先生がその後を引き継がれたという歴史をもつ日本習字教室。希望部員は日本習字協会に属し、段位認定試験もあります。ひらがな、硬筆も自由に出きますぞ。

どうです、あなたも巾広紙の上に真黒い墨で自分を表現してごらんになりませんか。

亀浦古墳を

ご存じですか？

11月27日(日)、今年もふるさと美化部(杉山重雄会長)、亀浦子供会の尽力で、亀浦古墳の草取り清掃が行われた。台風で壊れたままになっていた古墳周囲の柵も作り直されペイントされ、見違える程きれいになった。

正直な話、地元こんな遺跡があるなんて知らなかった。古墳時代後期のものらしいこの古墳、かなり傷んではいないが内部の天井石が露出しているなど見る者をしてロマンを感じさせるには充分である。眼下に消えゆく鍋島



この未調査の古墳を是非一度のぞいて見て下さい。

常盤婦人

ボランティア教室

〈家庭看護法〉

「常盤婦人ボランティア教室」も、二年目。閉講式を入れて、あと三回の講座を残すのみとなった。

先日の家庭看護法では、日赤から講師を招いての、実技、心得を学習した。

おとしよりのお世話をする時に、大切なことは「寝たきりにならないように」心を使う。寝たきりゼロへの十か条についてなど。介護の実技では、子育てをした時の、やわらかい気持ちを、甦らせて……とおとしよりへの接し方を、じっくりと学んだ。

閉講式を二月に控えて、ボランティアへの思いも、それぞれに根付いて来つつあり、受講生の殆んどが、何らかの形で、ボランティアに関って行きたい、との希望を持っている。どのよう、形にしたらいいか、どう行動を起こしたらいいか、模索中といったところである。

平成七年度 校区主要行事予定

- 互礼会
- 平成七年一月四日(水) 七草がゆ
- 平成七年一月七日(土) どんど焼き
- 平成七年一月十四日(土)

追憶

— 従軍の思い出 — (三)

数本 義雄

船上をヨロヨロと歩いて
いると、海軍の兵士が乾パ
ンをくれましたがノドがカ
ラカラで食べられませぬ。

兵士に話すと、医務室に連
れて行ってくれました。軍
医がこれを飲めと差し出し
てくれた薬はアルコールが
入った飲物で、ノドは素直
に通りました。「もう一杯
お願ひします」と言ったら
「貴重な薬なので」と断わ
られました。そしてお粥を
二杯いただきました。あの
味は忘れられません。洋上
では盛んに救助活動が続け
られており、船上には救助
された兵士があふれていま
した。

陽の沈むころには救助活
動も終わり、救助船は満員
の兵士を乗せてフルスピ
ドでセレベス島のメナド港
目指して急行したのです。
疲れと睡眠不足のため倒れ
るようになり、横になり、深
い深い眠りに入っていました。
思えばフィリピンの
マニラ港で乗船した兵士の
数は四千五百五十名でしたが、
海没の悲運により生存将兵
は一千八百余名、実に二千
七百名余りの若い尊い生命

の砂浜に上陸させたのです。
お世辞にも皇軍の上陸とは思
えないものがあつたと思
っていました。しかしなが
ら私の軍歴書には「昭和十
九年八月三十一日メナド上
陸」と書かれています。

私達は直ちに椰子林の中
にある倉庫に入り、各中隊
ごとに集合して、生存者の
確認をして軍医の診察を受
けましたが、私は目と内臓が
悪くなっているとの診断を
受け、即時入院です。小隊
長に報告したのち直ちにト
ラックに乗り、着いた所は
メナド郊外にある輝第一兵
站病院メナド分院でした。
看護婦はほとんどが現地人
でしたが、大変やさしかつ
たように覚えてます。

病舎は竹でつくつたもの
でお粗末なものでしたが、
マラリヤ蚊を防ぐためカヤ
は吊つてありました。入院
して三日目にメナド大空襲
があり、敵の飛行機がゴウ
ゴウたる爆音を響かせて襲
来したのです。午後一時ご
ろでした。私は直ちに毛布
を二枚持って、病舎より少
し離れたバナナ畑に逃げ込
みました。爆撃の凄かつた
ことは言うまでもありません。
私の付近にも何個かの
爆弾が落ちてきて大地を揺
るがせ、生きた心地はしま
せんでした。激しかった空
爆も一時間余りで終わしま
したが、病舎に戻つてみる

と、驚いたことに病舎は爆
撃で丸焼けになってしまし
た。海没そして病院全焼と
まつたく「ツキ」がないな
あと思いましたが、これが
戦争だと強く自覚しました。
午後四時ごろ日本軍のト
ラックが生き残りの兵士を
さがしに来ました。私はす
ぐトラックに乗り、二十名
の兵士と一緒にトモホンと
いう部落にある輝第一兵站
病院に送りこまれました。
入院生活は快適で目も内臓
も完全に良くなり、九月九
日に無事退院、同日、独立

歩兵第三七五大隊に充用さ
れました。ということは、
戦友が待つ原隊復帰ができ
たのです。なつかしい戦友
達の顔、特に松本君が一番
喜んでくれました。
直ちに中隊長に原隊復帰
の申告。そして人事係の神
田准尉に第二機関銃小隊に
配属するとの命令を受け、
小隊長および分隊長に申告
をすませ、皆と一緒に勤務
につくようになりました。
その時はすでに九二式重機
関銃が届いておりました。

銃砲隊の編成内容は中隊長
指揮、第一小隊、第二小隊、
第三小隊、それに弾薬小隊
でした。第一小隊と第二小
隊には重機関銃がそれぞれ
二丁配置され、第三小隊に
は大隊砲が二門配置されて
いました。
私たちの所属していた独

立歩兵第三七五大隊は遊撃
隊の部隊でした。すなわち
友軍が敵の攻撃を受けたと
き、迅速なる行動で応援に
かけつける役目なのです。
だから常日頃の警備の合間
合間に激しい訓練の毎日
でした。私たちの任地は赤道
よりわずか一度北に位置し
ており、日中は目もくらむ
ような暑さでしたが、旅団
本部の命令で移動がいく度
もあり、コヤ、ソンデル、
ケマ等々の部落の警備のた
め何回も移動していきまし
た。

そして入隊して六か月目
の昭和十九年十月一日、同
年兵六十名と共に一斉に全
員陸軍一等兵に進級し、胸
の星が二つになりました。
その中の三十名が上等兵候
補者として特別訓練を受け、
翌年の四月一日には名譽あ
る第一選拔上等兵としての
進級はわずか五名だけの非
常に厳しく激しい競争でし
た。私は幸いにも上等兵候
補者に選抜され、昭和二十
年四月一日に見事進級し、
胸の星が三つになりました。

ソンデルという部落の警
備についたある夜の午前一
時ごろ、突然非常召集のラ
ッパの音に夢を破られ、暗
闇の中で軍装を整えて銃廠
より重機関銃をとりだして
集合場所に急ぎました。全
員整列を終わり部隊長の訓

示で訓練とわかり「ホッ」
としたこともありましたが。
軍歴書には「昭和十九年
九月九日より同年十二月三
十一日まで独立歩兵第三七
五大隊にありて東北部「セ
レベス」地区の警備」と書
かれています。ケマという
部落の警備についていたと
き、ケマから約二十キロく
らい離れた山の中のテンデ
キ村の警備につくようにと
命令を受け、重機関銃を持
って八名が急行し、他部隊
の兵士に申し送りを受けて
交代し任務につきました。

そこには陸軍の倉庫があり
莫大な食料すなわち米、味
噌、缶詰等々が山積みされ
ており、その付近には対
「戦車壕」もつくられてお
り、双方の監視と警備が任
務でした。付近はうっそう
とした森林で現地人は親日
的で倉庫の近くには絶対近
づきませんでした。

この部落には約八十軒く
らいの家があり、村長が絶
対の権限を持っているよう
でした。一番驚いたことは
鶏が非常に多くいるのに鶏
小屋がないのです。陽のあ
るうちは地上におりますが、
夜になると一羽残らず木の
枝に飛んで行き夜を過ごす
のです。(次号へつづく)

(大沢住宅自治会長
宇部市西岐波二三四)